

授業科目名：コミュニティデザイン実習Ⅰ	教員の免許状取得のための必修科目（選択科目）	単位数：2単位	担当教員名：渡部陽介
			担当形態 単独
実務内容 （実務家教員の場合）	建設事業に関わる自然環境・景観保全について評価・計画手法の研究開発に従事。また、景観ワークショップやコミュニティガーデンの社会実験等，地域連携プロジェクトの経験を有する。		
「学位授与の方針」との関係			
A～F，6つの学位授与方針すべてに関係している。			
A. 共生社会創造のために，教育，福祉，環境，国際関係，スポーツ身体表現の専門的知識を生かし，狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。			
➤ 本演習で扱う Degrowth とランドスケープおよびコミュニティデザインは，自然科学・人文社会科学にまたがる学際的課題であり，狭い専門領域を超えて統合している。			
B. 問題が生起する現場において，専門知や統合知を使い，解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
➤ ローカルな自然共生の実践において専門家・住民・NPO・行政等が協働する現場の事例を紹介し，専門知・統合知を活かした実践への動機付けの機会をつくっている。			
C. 共感理解教育の理念を認識し，実践すること。			
➤ 人と自然，人と人との共生的なつながりを学び，共感理解教育の理念・実践への理解を促している。			
D. 多様な人々や生命に対して，他者を認め，他者を排除せず，仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って，共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。			
➤ 他者・自然との共生を重視する Degrowth の理論・思想への理解を深めつつ，自然共生をめぐる多様な主体の連携事例を学ぶことで，共生社会の創造に貢献する姿勢を養う。			
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため，自律的な課題探究能力を身につけていること。			
➤ 土地の自然・社会条件を読み解く視点を学び，自律的な課題探求能力を身につける。			
F. 共生社会創造の目的のために，絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
➤ ポスト成長社会における節度ある豊かなローカルの再興というテーマに演習で取り組むことで，受講後も身近なまち・地域で継続的に学び続けられる動機を喚起する。			
授業のテーマ及び到達目標			
・ ポスト成長社会のオルタナティブとして提唱されている脱成長 Degrowth の基本概念や視座を学ぶ。			
・ Degrowth の理論・思想とランドスケープの保全・継承を巡る実践との共通性を理解できている。			

- ・ 自然共生を基軸としたコミュニティデザインの事例について、Degrowth と関連づけて解釈できるようになる。

授業の概要

グローバル経済は肥大化を続け、環境危機(気候変動や生物多様性の喪失、エコロジカル・フットプリントの増大など)と社会問題(貧困や飢餓、格差の拡大、人権侵害など)は深刻さを増している。一方、国内では、人口減少・経済停滞の常態化や突発的な自然災害などに直面する地方都市や中山間地域を中心に経済成長を前提とした地域デザインが困難になっている。持続可能な社会に向けた岐路に立つ現在、グローバルとローカル、いずれの文脈でも成長パラダイムを転換し、オルタナティブな地域の構想・実現が喫緊の課題となっている。本演習では、ポスト成長社会のオルタナティブとして国際的に着目されている「脱成長 Degrowth」の理論・思想を学び、経済成長を前提とせず豊かに暮らしつづけられる自然共生を基軸としたコミュニティデザインのあり方を考えていく。

授業計画

- 第1回： ポスト成長社会の豊かさを再考する
- 第2回： ローカリゼーションと脱成長 Degrowth
- 第3回： 多様な＜共＞が共鳴する世界
- 第4回： ランドスケープと脱成長 Degrowth
- 第5回： 文化的景観の保全（１）
- 第6回： 文化的景観の保全（２）
- 第7回： 里山資源と地域経済の再生
- 第8回： 新たな縁をつなぐコミュニティガーデン
- 第9回： 小さな自然再生と適正技術
- 第10回： 自然エネルギーとコミュニティ
- 第11回： 水インフラマネジメントとコミュニティ
- 第12回： 事例調査（１）
- 第13回： 事例調査（２）
- 第14回： プレゼンテーション・グループ討議
- 第15回： 総括

定期試験

スクーリングでの学修内容

（第１回から第１５回までの内容を含む）

スクーリングでは、ポスト成長社会における自然共生を基軸としたコミュニティデザインのあり方を学んでいく。具体的には、まず学修の狙いや授業計画各回の要点について教員が解説する。その上で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講者が行った事例調査の成果をプレゼンテーションとして発表するとともに、全体でのグループ討議を通じて学びを深化させる。

教科書

- (1) 中野佳裕 (2017) : カタツムリの知恵と脱成長—貧しさと豊かさについての変奏曲, コモンズ, ISBN978-4-86187-142-9
- (2) 渡部陽介 (2012) : 地域アイデンティティとしての農村景観の認識構造に関する研究, サステナブル・ランドスケープ研究 第5号 ※Google Classroomにて配布する

参考文献

- (1) セルジュ・ラトゥーシュ (2020) : 脱成長, 白水社, ISBN978-4-560-51040-7
- (2) 渡部陽介・ルプレヒト クリストフ・秋田典子・篠沢健太編 (2019) : ポスト成長社会におけるランドスケープの方向: Degrowth」の可能性, 日本造園学会誌ランドスケープ研究 83 (1), 2-50, ISSN1340-8984
※本文献は学会誌の特集記事である。購入を希望する場合には教員に事前に相談してください。
- (3) ルプレヒト クリストフ (2019) : Degrowth (脱成長) とランドスケープ, ランドスケープ研究 83 (1), 6-7 <http://www.treepolis.org/publications/Rupprecht%202019%20-%20Degrowth%20and%20Landscape%20-%20Japanese.pdf>
- (4) 横張真・渡部陽介 (2009) : 農山村における文化的景観の動態保全, ランドスケープ研究 73 (1), 10-13 <https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2030772697.pdf>

参考 URL

学修指導書参照

学生に対する評価

レポート評価 (25%), スクリーニング評価 (25%), 科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する。